

テーマ:自然

テーマを設定する

日頃から園庭や近隣の公園で虫や草花などに興味をもっているのを、自然との関わりをより深めるため。

活動① ～土～

実際に「土」に触れる

環境をデザインする

●準備したもの 虫かご、プランター、土、ブルーシート

探究活動を実践する

●活動内容

- ・クラスで育てた野菜のプランターの土をブルーシートの上に広げて、土に触れる。

●子どもたちの様子

- ・土の中に手を入れ「濡れている」「冷たい」と土の感触を言葉にしながら、幼虫を見つけると「飼いたいね」と虫かごに入れる。「土も一緒に入れた方がいいよね?」「どのくらい入れる?」等、つぶやいていた。
- ・虫かごに幼虫と土を入れ終わると「(土は) まっすぐなほうがいいんだよ」と虫かごの中の土を平らにしていた。
- ・保育室に戻り、友達と一緒に図鑑を見ながら「カブトムシかコガネムシじゃない」と話していた。「寝て起きたら(午睡明け) 大きくなっているかな」と成長を楽しみにしていた。

南大井保育園（品川区）

活動スケジュール（4歳児クラス）

活動内容		時間/日数	人数
①	土に触れる	45分程度 期間：2日間	4人
②	ダンゴムシの餌	15分程度 期間：10日間	18人
③	どんぐりを使って	35分程度 期間：5日間	10人



振り返りをふまえた気づき

●園の先生から

- ・素手で土に触ることに抵抗があると思っていたが、指先だけではなく手のひらを使って土に触り、感触を楽しんでいた。少し抵抗がある子どもも保育者が触ると真似して触っていたため、保育者が率先して楽しむことの大切さを感じた。
- ・幼虫を飼うことを自分たちで決めたことが、自主的に図鑑で調べる姿につながっていた。

活動② ～ダンゴムシのえさ～

園庭で見つけた「ダンゴムシ」を飼ってみる

環境をデザインする

●準備したもの 虫かご・ダンゴムシ・画用紙・図鑑・餌

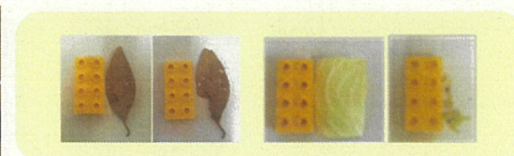
探究活動を実践する

●活動内容

- ・ダンゴムシは何を食べるのか、考える。
- ・餌によって食べ具合に違いが出るのかを観察する。

●子どもたちの様子

- ・虫かごのダンゴムシを観察しながら「ダンゴムシって葉っぱ食べるんだよ」と子ども同士で言葉にしていた。
- ・友達と一緒に図鑑を見ながら、ダンゴムシが載っているページを探し、何を食べるのかを見ていた。「ダンゴムシってチーズ食べるんだよ」「段ボールも食べるって」と図鑑に記載してある内容を友達や保育者に伝えていた。
- ・「(何を食べるか)ダンゴムシに聞いてみたい」と1人の子どもがつぶやくと、「(エサを)日にちで分けたらいいんじゃない」と別の子どもが言葉にしていた。
- ・期間(1週間)を設けてエサを入れ替えると「〇〇は食べる」「△△は食べない」とダンゴムシが食べているかを毎日観察していた。



ダンゴムシの餌：落ち葉・キャベツ



●園の先生から

- ・プランターで見つけた幼虫よりも、園庭で見つけたダンゴムシの方がより興味をもって関わる姿があり、改めてダンゴムシが子どもたちにとって身近なものであると感じた。
- ・ダンゴムシが何を食べるのかを自分で図鑑を見て考える経験は、子どもたちの主体性につながると感じた。
- ・子どもたちが考えたことをそのままにするのではなく、子ども自身が自分で確かめられる場をつくることで子どもたちの興味・関心が広がっていた。
- ・“ダンゴムシのエサ”という共通の話題は、自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりする経験につながった。友達の考えを聞いた後に、図鑑で調べる姿も見られたため、関心を深めることができたと感じた。

活動③ ～どんぐりを使って～

- 拾ったどんぐりや落ち葉を使ってどのような遊びができるか考える

環境をデザインする

- **準備したもの** どんぐり、紙粘土、油性マジックペン、紙コップ、絵の具

探究活動を実践する

● 活動内容

- ・公園にどんぐりや落ち葉を拾いにいく
- ・拾ったどんぐりや落ち葉を使って遊ぶ

● 子どもたちの様子

- ・拾ってきたどんぐりを見比べながら、子ども同士で「このどんぐりは、ぼうしがついていておもしろい」「これはまるいどんぐりで、こっちはほそいんだ。ちがくておもしろい」大きさや形、好みどんぐりはどれかなど話をしていた。
- ・「どんぐりにかおをかきたい」「どんぐりぱんをつくりたい」と伝える子どもがいる。紙粘土とどんぐりを使い「どーなつ」「クッキー」「どんぐりくるま」など様々なものに見立てて作る。紙粘土が乾いた後、色を塗り、ラッピング袋に入れ、ままごとやごっこ遊びに使っていた。
- ・どんぐりに油性ペンで顔を描き「このどんぐりはぼくで、このどんぐりはおとうさん」だよと友達と会話をしていた。



振り返りをふまえた気づき

● 園の先生から

- ・どんぐり拾いを夢中になって楽しんでいた。一つ一つのどんぐりの大きさや形の違いに気づき、気に入ったどんぐりを大事そうに持ち帰っていた。
- ・子どもたちから「どんぐりにかおをかきたい」「どんぐりぱんをつくりたい」などの言葉が聞かれたので、遊びに取り入れた。子どもの姿を見て、遊び方の広がりを感じた
- ・小さいどんぐりに顔をかくのは難しいと感じていたが、指先でしっかりと押さえてペンで描いていた。子どもの限界を決めてしまっていたと感じた。
- ・一日で完成するのではなく、遊びを継続していくことで「やりたい」「つぎはこうしてみようかな」などと自分で考える時間を作ることができた。